

アート思考とは？



山内 裕

アート思考とは何か？

不確実で複雑な時代において、ビジネスは論理的思考では
競争を生き残ることができず、美意識、感性、身体、感情、
自己反省を働かせることが重要となる
という考え方。

森功次. (2021). 「ビジネスパーソンのためのアート」本の流行と、教育的に注意すべきこと. 人間生活文化研究, 31, 409–419.

アートはビジネスに役に立つ。

アートとは良いものである。

それは本当にアート思考か？

アートは資本主義と対立する。

(だからこそ資本主義がアートを回収しようとする)

アートと我々が呼ぶもの

ロマン主義

18世紀末に近代のアートが始まる。

ミメーシス

模倣から表現へ。

天才的芸術家の内なる自然から湧き出る創造力。

ロマン主義は、興隆しつつあった資本主義・産業革命の
道具的合理性への反発として力を得たところが多い。

テイラー, C. (2010). 自我の源泉 (下川潔, 桜井徹, & 田中智彦訳). 名古屋大学出版会.

アートの自律化

18世紀末からのパトロンの解体。

19世紀のボヘミアンの出現。

ブルジョワアート市場の形成。

芸術のための芸術 *l'art pour l'art*

資本や権力に与しないアート。

負けるが勝ち—資本主義の論理の反転。

ブルデュー, P. (1995). 芸術の規則 I (石井洋二郎訳). 藤原書店.

なぜ今、アート思考か？

そして、なぜデザイン思考だったのか？

イノベーションを起こすためにアートの創造性が重要

顧客の体験をつくるためにアートの感性が重要

という話しではない。

アートによる資本主義批判が、資本主義にとって重要となっている。

2000年代の文脈

モノ自体に価値を感じられなくなった。

コト、体験、サービスに価値が求められた。

市場に流通した瞬間に価値を失うサイクルに入った。

ブランド、広告などへの懐疑やアクティビズム。

資本主義自体に信憑性がなくなった。

価値は資本主義の外部にしかない。

aestheticization

60年代以降の 美 学 化

排除したアートを表面的に取り入れてきた。

2000年代以降は、資本主義を批判するアートが、

authenticity

真 正 性 を持つようになる。

ボルタンスキー, L., & シャペロ, E. (2013). 資本主義の新たな精神 上 (三浦直希, 海老塚明, 川野英二, 白鳥義彦, 須田文明, & 立見淳哉訳). ナカニシヤ出版.

デザイン思考が2000年代後半に注目を集めたのは、
体験が重要になったのでも、美が重要だったのでもなく、
アートとしての資本主義への批判性が重要だったから。

美学=感性論

エスティティック

アートの批判性とは？

18世紀末

美学

啓蒙主義

ロマン主義芸術

産業革命

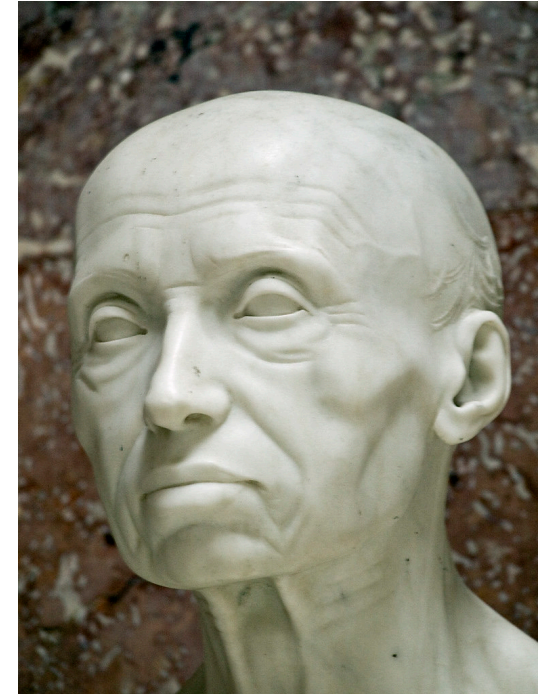
資本主義

aesthetic judgment

美的判断は「無関心」でなければならない。

“趣味とは、或る対象もしくはその対象を表象する仕方を、一切の関心にかかわりなく適意或は不適意によって判定する能力である。そしてかかる適意の対象が即ち美と名づけられるのである。(p. 84)

カント, I. (1964). 判断力批判 (篠田英雄訳). 岩波書店.



Immanuel Kant

CC BY-NC-ND 2.0 Ainunau

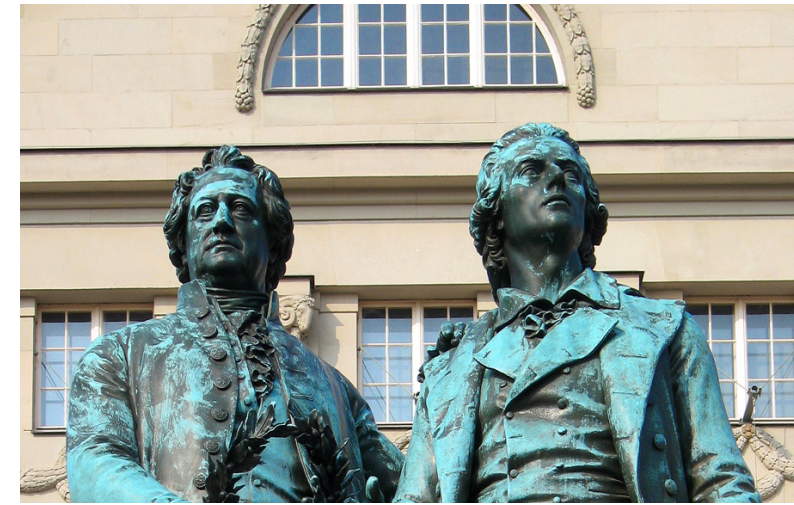
美的判断は、概念からも道德からも自由である。

美とは何であるかという理想に従った判断は、美的判断ではない。

ただ美と遊んでいればよい

“したがって理性はまたこうも発言しています。
一人間は美といっしょにただ遊んでいればよい、
ただ美とだけ遊んでいればよい—と。
(p. 99. 15信)

シラー, F. (2017). 人間の美的教育について (小栗孝則訳). 法政大学出版局.



Goethe

Schiller

美は、義務に基づく法則の尊厳さではない、
自由な遊戯としての道德の道を指し示す。

エステティックとは？

目的と手段の連関を宙吊りにする遊びの動き。

啓蒙の合理性や道徳、資本主義の道具的合理性を宙吊りにする。

18世紀末に力を持った啓蒙主義と資本主義に対する、
ひとつの批判(遊び)としても考えられるのではないか。

エステティック (美学=感性論)

= 既存のフレームワークの宙吊り

感じることをできなかったものを、感じることを
できるように、フレームワークに亀裂を入れる。

調和して閉じるのではなく、不和を抱え開いて
いく解放の政治。

ランシエール, J. (2005). 不和あるいは了解なき了解—政治の哲学は可能か
(松葉祥一, 大森秀臣, & 藤江成夫訳). インスクリプト.



Jacques Rancière

CC BY-SA 3.0 Annette Bozorgan

デザイン思考はエステティックを排除した。

誰でもデザインできるという民主的な主張は、
美大で学んだエリートだけが扱える「エステティック」
を排除せざるをえなかった。

結果的に、資本主義への批判力を失なった。

これがデザイン思考の限界ではないか。

なぜアート思考か？

資本主義の道具的合理性を宙吊りにし、
新しい感性的なフレームワークの可能性を示す
批判としてのエステティックが求められている。

資本主義が生き延びるには、自己破壊が求められている。
それがアート思考である。

伝わりにくかったので、補足します。

美と結びついた従来のエステティックは、どうしてもセンスよく絵を描けるというような意味でエリート主義的で、現在の民主的な理想を掲げるアートやデザイン思考と相容れないため、排除されてきたところがあります。

しかし、ランシエールによると、エステティックは既存の感性的フレームワークを宙吊りにする批判として捉えられる(美とは手を切って)ことができ、むしろ声なきものの声を聞こえることができるようにするという解放の政治性を持っています。

今、アート思考が求められているなら、その理由はこの新しい(本来の)意味でのエステティックだと思います。

Kyoto Creative Assemblage

2022年度から受講生を募集します。

20名から30名、6～7ヶ月のプログラムです。

社会人の方々にも学びやすいように設計します。

<https://assemblage.kyoto>

Prolegomena
今後のラインナップ

Session 4. 人新世のデザイン (1/20)

水野 大二郎 / 長谷川 愛 / 島影 圭佑 / 内田 友紀 /
川地 真史 / 田島 瑞希 / 山内 裕 / 田村 大

Session 5. デザインをデザインする (1/27)

水野 大二郎 / 長谷川 愛 / 島影 圭佑 / 内田 友紀 /
川地 真史 / 田島 瑞希 / 山内 裕 / 田村 大

Session 6. 事例: スターバックスはなぜ成功したのか (2/10)

山内 裕 / 越前屋 俵太

追加

Session 7. 企業の事例: ヤマハ発動機 (2/24)

山内 裕 / 末神 翔 (ヤマハ発動機) / 山本 尚美 (資生堂) / 井登 友一

Session 8. アートとは? (3/10)

辰巳 明久 / 舟越 一郎 / 富田 直秀 / 山内 裕 ほか

Session 9. プロジェクトのデザイン (3/17)

山内 裕 / 弦間 一雄 / スペシャルゲスト ほか